

知夫村公民館

1 知夫村の概要

[平成28年1月1日現在]

人口	592人	世帯数	337世帯	高齢化率	48.1%
学校	保育所1、小学校1、中学校1				

知夫村は、島根半島沖合の北方約44kmにある隠岐諸島の最南端に位置している一島一村の小さな島である。平成25年に世界ジオパークに指定されたように豊かな自然・歴史・文化に恵まれた島である。特に西海岸にある高さ200mの断崖である「赤壁」(国天然記念物)や、360°の大パノラマが楽しめる「赤ハゲ山」は隠岐を代表する観光名所である。

知夫村は、古来より隠岐諸島の玄関口・道標として海上交通の要衝地として栄えてきた。また、特有の牧畑制度、地域の暮らしに根付いた貴重な民俗芸能、伝統文化や行事が数多く残されている。

本村では平成25年度に「知夫里島学び舎構想」を策定し、教育による村づくりを推進しており、それに基づいて平成27年に県内2例目となる小中一貫校を開校した。

2 知夫村公民館の概要

(1) 地域の課題

近年の少子高齢化の進行は本村においても例外ではない。

昭和30年代には最大で小学校359名、中学校187名が在籍していたが、平成27年度には小学校25名、中学校13名にまで減少した。[図1参照]

また、本村では、中学校の卒業生の半数程度は本土へ進学する状況がある。限られた人間関係の中で育つため、コミュニケーション力が十分でなく相手意識を持ちながら協力・協働することを不得手とする子どももいる。様々なケースを想定し、中学卒業時まで子どもたちの自立心等を育むことは学校・家庭・地域の強い願いでもある。

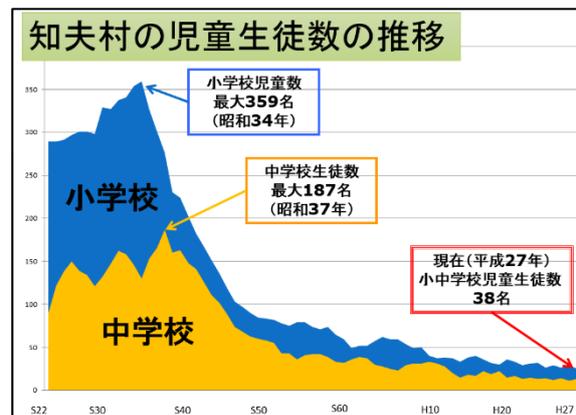


図1「知夫村の児童生徒数の推移」

(2) 課題解決に向けた公民館の戦略

先に述べたように、村では「知夫島学び舎構想」を策定し、子どもから大人までの教育を推進しようとしている。構想の具現化に向け、公民館では下記のとおり重点項目を定め、図2の方針を基に諸活動を実施している。

- ① 学校・家庭・地域の連携強化
- ② 島全体で子どもから大人までの教育を推進
- ③ 村民が集い、結び、学び合う活動の充実

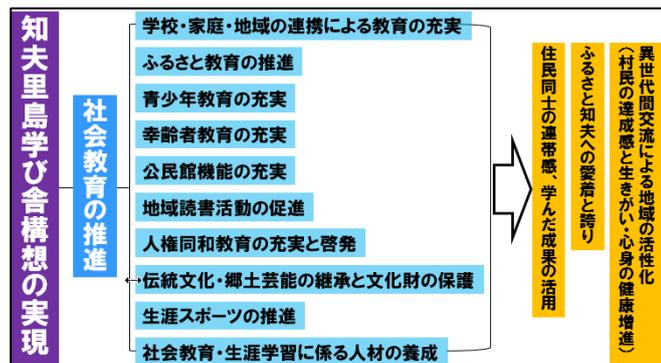


図2「知夫村公民館の方針」(抜粋)

3 特色のある取組

「知夫里島学び舎構想」に基づく特色ある宿泊体験活動

～「生きる力」「豊かな心」を育む9年間を通した系統的、発展的な宿泊体験活動～

(1) 事業のねらい

- ① 各発達段階に応じた宿泊体験活動を行うことにより、子どもたちに自立・協力・感謝の心を育む。
- ② 島内外の様々な関係者や専門家と連携し質の高いバリエーション豊かな体験活動を行うと共に、多様な出会い（人間関係づくり）の場を提供することにより、子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図る。
- ③ 地域の大人による積極的な参加・参画を促進し、地域で知夫の子どもたちを育てようという意識を醸成する。

(2) 具体的な取組

小中9年間を通した一貫教育の本格実施に伴い、本公民館では「9年間を通した系統的、発展的な宿泊体験活動」を実施している。

以前からいくつかの宿泊体験活動を行っていたが、各活動間の系統性や発展性はなく、それぞれが単発事業として実施していた。

そこで、発達段階に応じて①小学校低中学年：野外活動体験、②小学校高学年：島外での民泊交流・体験、③中学生：自立した合宿生活体験という3つのステップに整理した。〔図3参照〕



図3「事業概要イメージ」

9年間を通して子どもたちの「生きる力」と「豊かな心」を育む宿泊体験活動となるよう、「泊数」と「活動内容」も徐々にステップアップさせている。

(3) 成果と課題

ア 成果

- ・子どもたちの自立・協力・感謝の気持ちの育成
- ・関わる大人の関心・意欲の高まりと連帯感の醸成
- ・学校・家庭・地域の連携促進

※ I K R 調査等子どもへの評価、スタッフアンケート、関係者による振り返りの会 等による(割愛)

イ 課題

- ・系統性・発展性をさらに加味したプログラムの充実と若い親世代の参画促進

(4) 今後の方向性

今後も学校教育と社会教育の一層の連携・協働を図り、系統性と発展性を加味しながら、「自立・協力・感謝」の心を育むことを目指した活動を推進していきたいと考えている。